

日本自動車リサイクル研究所

輸出自動車リサイクル部品・表示研究の調査を実施

一般社団法人 日本自動車リサイクル研究所 (JVR)

事務所 東京都千代田区麹町3-5-5
設立 平成28年9月1日
社員 河村二四夫、清水信夫、熊田正隆
丸利伊丹車輛株式会社、株式会社シーパーツ
代表理事 河村二四夫
理事 吉川日男 (シーパーツ)、熊田正隆
監事 伊丹伊平 (伊丹車輛)

目的
当法人は、自動車リサイクルに関する調査・研究及びその成果の提供等を行うことにより、自動車リサイクル産業の資質の向上を図り、広く社会に貢献することを目的とする。

- (1) 自動車リサイクルに係る各種制度の研究及び運営事業
- (2) 自動車リサイクルに係る規格の研究及び運営事業
- (3) 各種自動車リサイクル技術の事業研究
- (4) 外国人技能実習生等の教育及び受け入れ等の研究事業
- (5) 自動車リサイクルに係る国際協力も含めた海外展開の事業研究
- (6) 自動車リサイクルに係る研修、講演会、講習会等の企画、運営、管理、受託及び講師の紹介、派遣並びに人材育成、教育事業
- (7) 出版物及びデジタルコンテンツ等の企画、製作、翻訳、編集及び販売事業

輸出リサイクル部品の表示研究構想

現状



オークション用に並べられたEKGにも何かを表示するラベル的なものは見当たらない

ドライブシャフトに付けられたラベル (シーパーツの事例)



タイヤに付けられたラベル (シーパーツの事例)



S444
105/55R15
YOKOHAMA
2002-10-14 14mm 14mm 14mm 152R
172 082_R4072

基本の考え方

- 《最小限表示する内容》を統一化
- +αの表示および表示方法・媒体などは自由

例

- ✓生産者名 ✓車体番号 ✓走行距離
- ✓製造年月日 ✓車名などの基本情報
- ✓外観や内部の状態に関する客観的情報

輸出リサイクル部品の表示研究

研究ポイント	☐ リサイクル部品輸出時の部品への表示記載項目の共通化を図る ☐ 国内輸出事業者のポジショニングを強化する
目的	輸出リサイクル部品の『共通表示項目を整備』することにより、現在、海外バイヤー主体で取引されている『輸出リサイクル部品売買』に対するイニシアティブを確保する
背景	■現在のリサイクル部品輸出時の品質チェックは、多くの場合業界のヤードに滞在しているバイヤーが行うか、ショッピングバイヤーと呼ばれる人たちが、業界のヤードに来社して品質チェックを行っている。 ■したがって、輸出時の品質状態の表示に関する問題は、バイヤーの手に委ねられていて、各国に存在するユーザーは、バイヤーの表示方法に依存されているのが現状である。 そのため、各国のユーザーは、日本から輸出されるリサイクルパーツの表示方法が正しいのかどうかは、知ることができない。 ■日本国内で販売されるリサイクルパーツに関する品質表示は、多くの議論がされているが、海外輸出に関することは、一部の業者の間では、議論されているが統一性がまったくないのが現状である。 ■実態は、中間ブローカーであるバイヤーの良し悪しで、販売金額や需要の増減が決まる。リサイクルパーツの海外輸出の需要と供給を一層拡大することは、国内マーケットを拡大する以上にスケールメリットが見込めるので、この問題を、業界の枠を越えて研究する必要がある。
構想	【表示項目】 1.生産者名2.車体番号3.走行距離 (誤差があるので可能な限り必要、特に先進国では重要視) 4.外観や内部に関する客観的な情報5.製造年月日6.車名および車体形式、など 【取引システム】 1.インターネット利用を前提に表示、また対応できる画像等を併用することによって、価値を創出。
部会構成	・輸出リサイクル部品生産解体事業者⇒自動車解体業者 (主に首都圏からテスト研究する) ・リサイクル部品輸出事業者⇒首都圏の輸出シッパー (ショッピングバイヤーも検討する) ・ネットシステム&eコマースを構築できる事業者 ・自動車リサイクルパーツの国際流通関連の学識経験者 ・コーディネーター

日本自動車リサイクル研究所 (東京都千代田区麹町、河村二四夫代表理事) は、自動車リサイクルの調査研究を実施し、かつ日本E・Vリサイクル機構と協力して解析を行い業界・社会に研究成果を提供することを目的に昨年9月1日に設立された一般社団法人だ。同研究所はこのほど、輸出される自動車リサイクル部品の表示研究に関する構想を打ち立てた。この一環として、8月2日に千葉地域のパーツ輸出業態調査を実施した。ここではその概要を紹介する。

日本自動車リサイクル研究所 (Japan Vehicle Recycling Research、以下JVR) は8月2日、輸出リサイクル部品の表示研究部会の活動の一環として千葉でのパーツ輸出業態の調査を実施した。

参加者は、吉川日男理事 (シーパーツ) ほか計8名。メンバーとオブザーバーに分かれ、2台の車でオークション会場や自動車解体業者のヤードを見学した。

最初に訪れたのは、四街道AA (オートオークション) がある。オークション用に並べられたエンジン類には、ラベル類は貼られていない。バイヤーが自分の目で見て部品の状態を判断し取引を行うことが前提となっている。現物を見ての取引となるため、また専門のバイヤーが取引を行うため、「特にラベルによる当該製品の説明の必要性を感じない」という意見があった。しかし、目利きに自信がない場合や、判断の確認の意味で参考になることも考えら

れ、「ないよりはあったほうが良い」という意見も同時に聞かれた。

続いて「3WM・千葉営業所」を見学した。中古部品のラベル表示のことは話題にならず、調整区域などの関係で屋根が設置できないこと、ヤードの条例で壁にスリットが入っていることなどが話の中心になった。

その後は「茂華」という台湾人経営のヤードを見学した。敷地内には作業場、建屋がある。その近辺に多くの部品が置かれ、日本の解体業者によく見られる光景だ。時折オークションも実施しているとのことだ。

続いて「民生工業」という解体事業者を車内から視察した後、シーパーツ千葉営業所へ移動した。

インターネットサイトでの表示の重要度がポイントに

シーパーツでは、ロシア向けの部品輸出は既にネットオークション形式となっており、既に取引があるバイヤーのみならず、面識がないバイヤーも会員になっている。

Japan.car.ru&Drom.ruなどは、ロシアで展開しているインターネットビジネスだ。Japan.car.ruを例にとり、各種の

中古自動車リサイクル部品も写真入りで登録されている。

調査の参加者からは、「こうしたサイトで、部品の情報の表示がどれだけ重要なかがポイント。末端のユーザーが部品の状態を意識し、相応の価格で買うのであれば、その状態を表示する意義はある。状態による価値

意見を交換。ネット販売においてラベル表示の効果が有効という意見が多く聞かれた。

の差は逆算してどこかで連鎖しているはずだが、出発点の日本の供給者の時点では価値の差はなく、一律の資源価格に連動する。ここで表示が重要になる」との指摘があった。

また表示に関する議論では、盗難対策としての有効性の言及があった。その一方で、「表示を制作者の義務となるため、表示を手間と考える事業者も出てくる。そこまで盗

難、不正解体が起きているとかであり、制度の複雑化は避けたい」という意見が聞かれた。今後の研究の行方に注目が集まりそうだ。



四街道AA (オートオークション) オークション前のエンジン類置き場